

## 令和5年度 学校評価 自己評価書(2学期)

### 1 学校の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 確かな学力の育成</li> <li>○ 豊かな心の育成</li> <li>○ たくましい生徒の育成</li> <li>○ 社会に開かれ信頼される学校</li> </ul>
--

### 2 課題と改善策

	評価事項	職員	改善策
確かな学力	1 問題解決的な授業の実践（明確な学習目標・学習課題の提示，分かる板書，山場の設定，確実なまとめ）	○3.3	・ SHKを利用して，学び合い・教え合いを推進する。また，單元ごとの振り返りを充実させ，考えの深まりや気付き確認する。
	2 個に応じた指導の実践	○3.3	・ 過去問やマナビ等を効果的に活用する。
	3 SHK（Shimizu 班活動）による学び合い，助け合い学習の場の設定	○3.3	・ SHKによる学び合い・教え合いを充実させるとともに多様な考えに触れられるようロイロノートを活用する。
	4 家庭学習の時間確保と効果的な見届け	2.8	・ 個に応じた取組（量の調整やタブレットの活用等）を工夫する。
	5 読書活動の推進（朝読書や読書の奨励）	○3.3	・ 家庭と連携した読書指導を推進する。
生徒指導	1 時と場に応じた「礼を正す」指導の徹底	3.3	・ あいさつに対する意識が高まっている。学校外での主体的なあいさつにつなげていきたい。
	2 清掃や緑化，室内の整理整頓など「場を清める」指導の徹底	▼3.0	・ 清掃等への取組はよいが，目標である無言作業を徹底していきたい。
	3 不登校（傾向）の減少といじめ撲滅に向けた組織的な取組	○3.1	・ 夏季研修会等で，不登校生への対応について研修を深めることができた。今後は，組織としてのアプローチを検討したい。
	4 生徒の主体的な活動の推進（学校行事や生徒会活動の活性化）	▼3.2	・ 3年生を中心に生徒が主体となった質の高い学校行事ができた。所属感や有用感を高め，不登校生の減少につなげたい。
進路指導	1 学年の発達段階に応じた系統的・継続的な指導	○3.1	・ 年間指導計画等を見直し，発達段階に応じた取組を意図的に設定していく。
	2 キャリア教育の視点に立った体験活動や学級活動の取組の充実	○3.1	・ キャリア教育の視点で各行事を見直し，指導していく。
	3 適切な進路情報の提供	○3.1	・ 積極的な発信に努める。
保健・安全・体力	1 生徒の発達段階に応じた性教育の推進	3.3	・ 年間指導計画に沿った系統的な取組が推進できている。
	2 安全点検の確実な実施	○3.3	・ 定期的な点検が実施され，危険個所の修理・修繕ができています。
	3 安全指導の充実	○3.2	・ 様々な訓練等を通して，防災意識や交通安全意識が高まっている。今後も，平時からの指導を継続していく。
	4 部活動での「心・技・体」のバランスの取れた生徒の育成	3.2	・ ガイドライン等を守りながら，保護者の協力を得て，活動に取り組む。
地域連携	1 家庭・地域・関係機関との連携の推進	3.0	・ 関係の方々にご協力いただき，学校運営がなされている。また，PTAの変革により，新たな連携を模索している状況であるが，保護者との連携はスムーズである。
	2 定期的な情報発信（各種たよりや保護者会等の充実）	3.2	・ 説明責任を果たせるよう，定期的な情報発信に努める。

### 3 次学期に向けての取組

- 各学力検査の分析を進め，補充指導を徹底するとともに，SHK（Shimizu 班活動）による学び合い，助け合い学習をさらに充実させ，主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげていく。
- ICT機器を積極的・主体的に活用した学習活動の充実を図っていく。
- 不登校の新規を出さないための居場所づくりや学級づくりを推進するとともに，生徒の所属感や自己有用感を高める取組を創意工夫していく。また，不登校生の学校復帰も進めていく。